

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400122		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	グループホーム 豊岡の森		
所在地	兵庫県豊岡市九日市上町10番地		
自己評価作成日	令和2年8月30日	評価結果市町村受理日	令和2年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和2年9月19日(Line活用の調査)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在新型コロナウイルスの流行を受け、家族、地域との積極的な交流が控えられている中で、当事業所で出来る事、家事(調理、掃除、洗濯、裁縫など)、菜園作業、季節行事などの日常生活上の作業において、各入居者の能力や嗜好に応じて出来る事をして頂き充足感や達成感を感じて頂けるよう支援しています。また、当事業所での看取を希望をされた際は、協力機関との連携を行い可能な限り意向に沿えるよう支援を図っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・医療連携 訪問看護ステーションが4分程度の場合にあり、日頃から密な連携が行えており、主治医とのやり取りも随時行っている。・新型コロナウイルスによる環境変化を捉え、ご家族面会自粛に対し、オンライン活用やベランダ窓越しの面会など繋がりを大事にしている。
【工夫点】・訪問調査前に顧客より本年度はLineで実施できないか?の問合せ連絡があり、当方にて可否検討後可能回答を行い、新型コロナウイルスによる環境変化対応として臨み、訪問調査時と同じ進行で進め途中休憩を入れ時間内(3時間内)に終了できた。・食事が楽しみとなる取組みをしており、事業所で食材から確保して調理をしている。メニューはあるもののアレンジして個々の嗜好に合わせて提供できる。・面会は、オンライン面会或いはベランダ越しでの面会の工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に事業所理念を定め、定期的を確認し皆は沿って支援できるよう努めている。	開設以来「その人らしい生活と温もりのある家庭的な生活環境を目指し安心と安全を提供します」の理念を事務所玄関側に掲示し、管理者及び職員は定期的を確認し理念を共有した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや地域行事で入居者との直接交流を図っていたが、新型コロナウイルスの流行により、予防のため現在中止している。	従来、祭りや地域行事で入居者との直接交流を図っていたが、今年度は新型コロナウイルスの流行により、地域行事への参加は取りやめ、自治体の地域活動の施設前の側溝等の清掃を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談だけでなく、相談を受けた際は、アドバイスと共に、適した窓口(高年介護課、地域包括支援センター等)へ紹介をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は新型コロナウイルスの流行により開催が適っていないが、基本年6回の会議を開催し、その都度、参加者から今後の計画に対する意見を伺っている。	今年度参考資料として2,4,6月の運営推進会議議事録を確認。12月迄の参加者が不参加になっている。事前に市担当に確認の所、市及び地域包括担当を含め、不参加やむなしの確認をし、議事録を配布している。	事故及びヒアリハット現況を記載されているが、一歩進めリスクマネジメントの一環として、発生内容による対策の効果やヒアリハット提案数の推移等の明確化が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問点など生じた際は、行政の担当者に相談に応じて頂いている。また、運営推進会議開催時には地域包括支援センターの担当職員の参加がある。	人員配置等や消耗品等の準備等都度行政の担当者と連絡を取り合っている。コロナ対応前の運営推進会議では地域包括担当の参加を得て事業所の取組を伝え意見交換をしている。	新型コロナウイルスの影響による不参加背景であるが、議事録等にて問合せ状況等記載が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回開催する高齢者虐待防止研修には、「身体的拘束等の適正化のための指針」を取り入れ、全職員が学習、防止できるよう取り組んでいる。	年2回高齢者虐待防止研修と併せ身体拘束等適正化指針を基に職員研修を実施し正しい理解に取り組んでいる。玄関ドアは日中(9-18時)はフリーとしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修には様々な事例資料を利用し、全職員が虐待について理解防止できるよう取り組んでいる。	高齢者虐待防止研修では様々な事例資料を利用し、特にスピーチロック等発生しやすい事例等全職員が虐待について理解防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用の入居者がおられる。成年後見人制度について研修を開催し、学ぶ機会を持っているため、他入居者本人の権利に対しても必要な支援を関係者で検討していきたい。	年後見制度利用の入居者が1名おられ、また現在1名検討中。権利擁護に関するパンフレットを常備し面会時や職員への学びとして研修を実施している。	職員への権利擁護の研修効果等確認工夫等期待される。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は十分に時間を取り、利用者や家族に不安がない様に適宜疑問点の有無を確認しながら、理解・納得を図っている。	契約は十分な時間をとり利用者等の関心事である看取り、通院支援、退院時期等十分に理解して頂くよう理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日常の中で思いを察するよう心掛けており、家族には、面会時や電話、満足度調査も行い、意見を聞けるようにしている。また、運営推進会議開催時は、外部からの意見を求める機会としている。	昨年度は、職員名札の要望があり実施している。又従来より面会時や連絡電話時等で満足度調査を行い、率直な意見が聞けるよう工夫をしている。又1月迄は、運営推進会議に参加して頂き意見を伺う機会としている。	車いす利用者が各ユニット3名の現状化で家族より体重測定器の要望がある。予算面より難しいが、上部への検討依頼が期待される。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ミーティングで意見や提案を聞くと共に、随時より良い運営のための話し合いを行っている。	管理者は、月1回のユニット会議や各フロアミーティングで職員意見や提案を聞く機会を設け、職員の休息室の防音化等あるが、予算面もあり、現在上部へ検討依頼中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望に副えるよう無理のない勤務体制作りを行っている。また、待遇に関して社内のスキルアップ、キャリアアップシステムを整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行い、個々の職員のスキルアップに努めている。また、社外研修の案内も随時掲示し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊岡市の地域密着型サービス事業所連絡会に例年ならば管理者や計画作成担当者が参加しているが、今年度は新型感染症防止の観点から行えていない実情がある。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	より良いサービスの提供の為、初期段階では特に関わりを深く持ち、生活の情報収集を行い、改善の材料となるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族それぞれの想いに寄り添い、可能な限り生活上の希望を適えられるよう支援を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人の状況を確認し当事業所が適切なのか、他のサービスが適切なのか検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はもとより入居者同士も、出来る事は支え合える様に自然な形での役割分担の形成など心掛け支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲内で、協力をお願いしている。精神的に拠り所としている家族の支えは欠かせないため、信頼関係の維持に努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、馴染みの方との面会を大切にしているが、現在は感染症対策として可能な限り電話でのやり取りやオンライン面会をお願いしている。	感染対策でどうしても人間関係や地域社会との関係が閉塞的になりがちです。しかしこれまでの関りを少しでも継続していくためオンライン活用やベランダ窓越しでの面会とつながりを大事にした支援で働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性やその場の雰囲気などの状況を見て、職員が間を取り持つなどし、孤立しないような取り組みをしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居などに際しては、介護サマリーを作成し情報提供を行っている。また、電話等で相談を受けた際の情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中での言葉や思い、表に出ない意向も見つけて支援が行なえるよう努めている。認知症や加齢が進み、意向を伝えられない利用者にも、「本人に寄り添った支援は何か」を考えるよう心掛けている。	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを職員と共に過ごす時間の中で表情や行動から汲み取り把握するように努めている。「本人はどうか」の視点にたち一人ひとりがどのように暮らしたいのか丁寧に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントシートの記入を依頼し、本人の生活歴、病歴、人物相関図などの記載をお願いし、それを基とし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を確認し、日々変わって行く入居者の心身の状態把握に努め対応している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員等からの情報を元にモニタリングを行ない、ケアプランの変更の場合は、それぞれと話し合い、新しいプランへ変更を行なっている。	生活・心理面の視点や、できない事よりできる事に注目し、その人の全体像を全員で確認し意見交換やモニタリングをおこなう。日ごろのかかわりの中で想いや意見を聞きミーティングで話し合い計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事とその都度介護記録に記入し、情報を共有しながら支援を行なっている。また、ケアの気づきや工夫についての意見は介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行や加齢により全体的に重度化しているが、各機関の協力を得て利用者や家族の意向を取り入れられる様支援やサービスを行なっている。		

自己	第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターとの協働はもとより、運営推進会議等を通じて、これらのつながりを継続できるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期診療で継続的医療が受けられている。24時間医療体制が整っており、緊急の対応も速やかに受けられている。	第2第4火曜日に定期診療を受ける。24時間体制で主治医と訪問看護との連携も図れ医療体制は整っている。体調や些細な変化を見逃さず変化等に気づいたときは訪問看護師に報告し適正な医療につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による医療連携で、定期健康チェックを行なっている。早い段階での状態変化等の気づき、いつでも相談でき助言が得られている。協力医への適切な医療支援につなげている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護サマリーで速やかに医療機関に情報提供を行っている。また、スムーズに退院できるように、家族や病院関係者と十分に話し合いや支援を行なっている。	入院によるダメージを極力防ぐため介護サマリーでは、食事形態や入眠及び認知症の状況等の情報提供を行う。退院に向け回復状況等の確認や特に入浴支援や移動に関して確認し家族や病院関係者と話し合いの場をもち速やかな退院支援をおこなっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、できるだけ早期から、重度化した場合や終末期をどのような迎え方を希望するか話し合っている。不安が生じないように、状況の変化の度に、医療連携体制や方針を確認し支援している。	重度化への対応は本人及び家族等の大きな関心と不安の一つである。できるだけ早い時期に事業所として対応し得る最大のケアについて説明している。医療連携体制も整い看取りを迎えるにあたりまず看取り時の主治医の説明を十分理解し、チームで統一した支援に取り組む体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルで定期的に研修を行っている。利用者の急変や事故発生時適切な対応が取れるよう、利用者それぞれにおいて、話し合っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。消防署から、いざという時に慌てないよう、災害時の対処方法等の指導を受けている。災害に備えての食品・物品も常備している。	年2回昼・夜を想定した災害時の避難訓練を実施している。立地上玄関側は道路を隔て傾斜地があり、各個室裏は、傾斜地に面している。当背景で年1回消防署立会時災害時の対処方法を学んでいる。備蓄は3日間分内容管理されている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけていないか、プライバシーを損ねていないか等、常に配慮すべきことだ。研修等でも誇りや自尊心を大事に接することを指導している。	人前であからさまに介護をしたり、誘導の声掛け、援助が必要な時でも、まずは本人の気持ちを大切に。職員が利用者が発する言葉の内容や語調がプライバシーを損ねるものになっていないか、年間研修では基本に立返るテーマで実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の進行の中で、言葉等での意思表示が困難な方の思いを察することに努めている。支援できているつもりになっていないか、と振り返る。本人の希望や好みを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れやスケジュールはあるが、無理強いせず、その方に合わせた支援を行なっている。食事時間がずれたり、入浴日の変更など柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に着替えの衣類を選んでもらうよう配慮している。好みの衣類等、本人や家族からの情報を得て、慣れ親しんだ好みのものを着用していただいている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の発注から調理まで、事業所内で行い、利用者への食欲を高めている。準備や片付け等、出来る事を利用者をお願いしている。誕生日や行事には、好みや特別メニューを取り入れている。	食材から調理をし基本メニューアレンジで個々の好みを取り入れている。お刺身やお寿司など特別メニューとして行事に取り入れている。皆でおはぎ作り等その人がやってみたいという前向きな意思や気持ちを引き出すよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足が起こらないように、利用者の様子を把握し、メニューも工夫しながら提供している。嚥下機能低下等の利用者には、ミキサー食やトロミ剤を利用して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口腔ケアやうがいの声かけをし、口腔内の清潔保持の支援を行なっている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でのトイレ利用が困難な利用者であっても、排泄リズムを把握し、定時のトイレ誘導を行なうよう努めている。また、失禁時の対応にも、羞恥心等の配慮に気をつけている。	トイレでの排泄を可能にするためにまずはトイレに座ってもらう。身体機能に応じた支援や本人の生活リズム、一人ひとりの排泄困難な要因を丁寧にチェックし、習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探りつつ、便秘予防に適した食物、飲物を提供している。同時に、主治医・訪問看護師に相談し、便秘薬の処方や調整をし対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が設定されていても、利用者の体調や気分によって入替えを行なったりして、柔軟に対応している。羞恥心や恐怖心などの無いよう、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	週2回以上入浴したい日、時間に合わせその日の希望を確認し入っていただく。入浴を嫌がる方には、散歩に連れ出しその後に入る、入浴準備と一緒に進むなど気持ちや習慣に合わせて対応している。また重度化に伴い職員2名体制で介助浴を行う。体調によっては清拭に切り替え対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の体調や意向で、日中でも居室に戻り、休んでいただいている。安眠できるよう、一人ひとりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが利用者の薬の理解に努めている。薬の変更が会った時は、必ず連絡帳で変更内容を周知しており、症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報を元に、塗り絵や縫い物、折り紙等の趣味活動や、家事作業・園芸作業を行なっていただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力のもと、外食や美容院に出かけられている。短時間でも戸外へ出る支援を行なっている。車椅子の利用者も天気の良い日は、もっと外でひなたぼっこや散歩が出来るよう支援したい。	コロナ感染症の影響下で外出の機会は激減した。地域交流も今年度は中止、そのような状況ですが短時間でも戸外に出る機会を設けている。気分転換やストレスの発散となるよう本人希望やその時々状態に応じ敷地内や広場での散歩ベランダでの外気浴など週2～3回行っている。	

自己	第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預っており、本人の希望に応じて嗜好品や生活用品を購入している。移動販売のパンを買ってもらったり、出張美容師による散髪もお小遣いから支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話のやり取りなど、意向を伺い適えられるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからの景色で自然が感じられてる。また、季節の生花を飾ったり、職員との協働で季節の壁飾り等を作り、季節感を取り入れている。	共用の空間は利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激がないよう配慮され、フロア壁には、季節毎の職員との協働による利用者作品などが貼られ季節感を採り入れ、新型コロナウイルスによる外出等自粛ムードを払拭する様なユニークかつ楽しい作品や写真などを展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席位置で気の合う利用者で歓談できるよう工夫している。居室以外にも窓辺や廊下の椅子などで、一人で落ち着ける場所で過ごしていただいている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れたなじみの家具を置いて使用していただいている。その人らしく暮らせるように、家族写真も置かれている。	居室は出来る限り使い慣れた馴染みの家具(籐タンス等)や家族写真を置き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるよう、バリアフリーになっている。トイレや浴室入り口はわかりやすい表示を用いている。各居室にはわかりやすい表札を張り、混乱防止に努めている。		